

海草移植の評価は？

→ 総合的に見て、手植えによる海草移植地は概ね良好に推移していると評価されています。

- 平成17年8月1日の「環境保全・創造検討委員会」で、手植えによる移植後約2年半経過した移植地の評価について議論されました。その結果、生育被度（海草の密度）は減少していますが、他の自然の海草藻場も同様に減少傾向にあること、移植した海草の面積は増加していること、移植した海草藻場において様々な生物が生息し始めていることから、総合的に見れば移植地は概ね良好に推移していると評価されました。（資料5～9参照）

委員会での評価（原文のまま）

- 短期的に見れば、被度はいったん減少した後増加するまでにはいたっていないが、自然藻場の変動範囲内であること、藻場の面積、生物生息状況においては概ね良好な結果が得られており、海草の再生産は図られ、生物生息環境も進展していると判断されることから、藻場生態系は維持されている。
- 長期的に見れば大型海草群落は遷移の途中とも見られ、今後もモニタリングを継続していくことが重要である。

